

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
成果報告会 発表資料

活動団体名：岡山県

活動地域：真庭市

エネルギーと食による里地里山里海保全のモデル

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

真庭版 地域循環共生圏

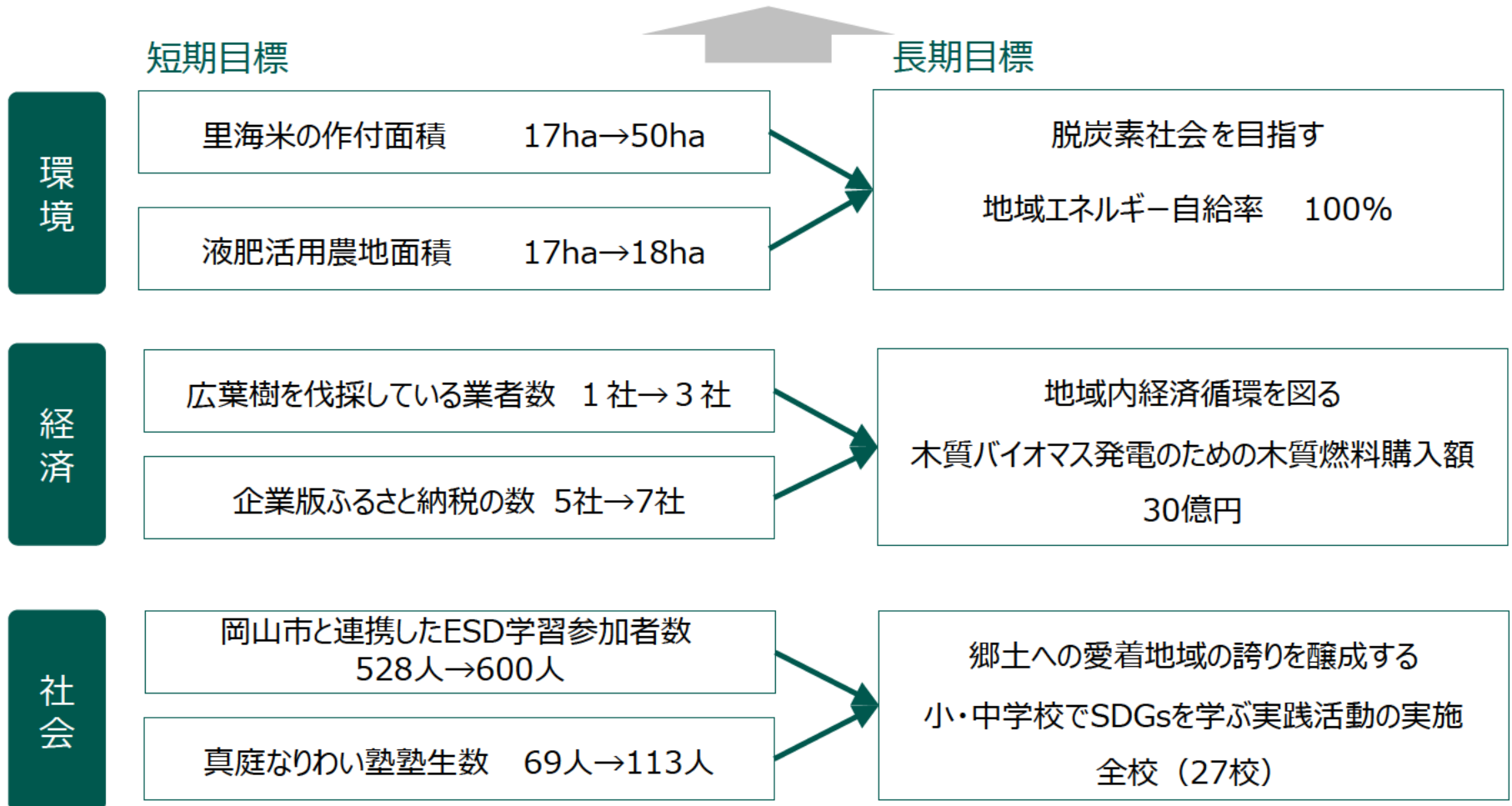
～真庭ライフスタイルの実現～



「エネルギーと食による里地里山里海保全のモデル」を目指す

地域のビジョンを実現するための成果指標

真庭市の安全安心の大前提は、空気、水、山、森、川などの豊かな自然環境です。旭川の清流化や森林資源の保全だけでなく、里山の取り巻く自然環境そのものの価値を高め、市民の間に自然を楽しむ心を育んでいます。自然があることが当たり前の生活の中で、自然・環境への負荷の少ない資源循環のまちづくりに取り組んでいきます。



コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	真庭里海米の推進	
	事業の概要	産業廃棄物となっていた瀬戸内海の牡蠣殻を水田の土壌改良材「セルカ」として再利用する地域循環農業として、農協、生協、漁協等と連携し、真庭市ではその土壌改良材を活用して生産されたお米を「真庭里海米」としてブランド化し、お米のトップブランドを目指していくもの。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、全国でお米のブランドが非常に多くある中、「真庭里海米」を消費者にプレミアムとして訴求していく戦略を検討していくことが必要。 ・市内での機運を高めるために、市内小中学校の学校給食に提供することを決めた。
2	事業の名称	広葉樹の有効活用	
	事業の概要	真庭市ではこれまで、主に発電用燃料として杉、ヒノキを中心とした針葉樹を活用してきた。近年は、バイオマス発電のコスト削減やF I T卒業後の事業継続の方法について検討してきた。その中で、市内に豊富に存在し、過去には薪炭材として活用されていた広葉樹の有効活用について実証を行うこととし、今回は早生樹を植栽し、成長具合や土地、気候等との適応性を観察していくこととした。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早生樹の環境適用 ・伐採から搬出までのコスト削減の方法（高性能機械の開発や林道整備等）
3	事業の名称	里海里山交流促進	
	事業の概要	里山の活動、里海の活動を単一エリア内にとどめるのではなく、地域間の交流やつながりに展開させ、資源や人が広範に循環することで持続可能な地域を互いに構築（共生）することを目指す。その交流を実現させるためのコンセプトや考え方、実践プログラムをまとめた基本構想を策定する。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の高齢化、担い手不足 ・研究データ、知識の不足

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- 地域の資源を見える化することによって、様々な関係者がその資源を結び付けて何か新しいことを考えるきっかけとなった。
- 役所内で部署横断的に本事業を実施し、定期的な情報共有を行うことで、本事業に限らない連携の促進につながった。
- 本事業の取り組みについて、市外の様々な方から問い合わせをいただいたり、ヒアリング、講演依頼をいただく機会が増え、また、環境省の広報誌や環境雑誌に掲載いただくことで、市のPRにつながった。

今後の意気込み

- SDGs 未来都市である真庭市は、SDGsの推進に併せて地域版SDGsである地域循環共生圏の取組を推進することで、中山間地域の発展モデルを築いていきたい。
- 市の最上位の諮問機関である真庭市総合計画審議会での議論を行うことで、市全体の方向性としての共有が図れた。今後は総合計画の見直しにあたって、本内容を踏まえることでより一層の推進を図ってきたい。
- 真庭里海米については、学校給食の提供が決まっていることから、地域の子供たちが市内外の環境に関心を持ってもらえるように学習教材にも活用していきたい。

地域の活動の上での課題

- 地域のビジョンについて
第2次真庭市総合計画の見直しに併せて、地域循環共生圏の概念を計画に取り込むとともに、地域版マングラを策定ワークショップの材料として、広く様々な方々の意見を伺いながらブラッシュアップさせていきたいと考えている。
- ステークホルダーの巻き込みについて
引き続き、様々な関係者との協働により、事業を発展させるとともに、外部からの賛同を得て企業版ふるさと納税につなげていきたい。